



第3回 国有林材供給調整検討委員会を開催

「現時点での供給調整は
要しない」との検討結果

12月12日に本
年度3回目の
「国有林材供給
調整検討委員会」
を開きました。

出されました。
委員からの主な意見は次のと
おりです。

○素材生産業者は条件の良い山
を買っており、生産効率の悪い
山が売れていない。トラックの
運転手が不足しており、現場ま
でトラックが入らず、伐っても
材を出せないこともある。

○11月に入り出材量は増えてい
るが、台風被害の影響からまだ
足りない状況にあるため、国有
林は安定的に出材してもらいた
い。素材生産量の増大に向けた
課題は、再造林の人手が足りて
いないこと。再造林できないか
ら皆伐をしないということも心
配される。



挨拶する池田局長

○原木価格について、
スギはまだ強気、ヒ
ノキは安定している。
木材の引き合いが多
いため、今後は直送
による取り引きや、
森林整備まで含めた
立木購入を進めてい
きたい。

○建築現場では大工
が不足しており、プ
レカット工場の加工
力や山林の労働力の
不足も課題となっている。製品
荷動きの品目に偏りがあるが、
これは、輸入品の代替で国産材
が使われているものがあるので
は。



意見を述べる各委員（上・下）

○住宅施工は地場工務店よりも
大手メーカーの受注が増えてお
り、KD材は受注が増えて
値戻ししたが、グリーン
材は価格が上がる状況に
ない。製材工場では原木
が不足しているため、国
有林は安定的に出材して
ほしい。

○合板については、住宅
着工が好調なため生産量
を増やしても不足気味で
ある。大型の製材工場が
B材まで手当しており、
9月頃から原木が思うよ
うに入らない。国有林は
しっかりと出材してほ
しい。



委員会の模様

などの意見が出されました。
(担当：地域木材情報分析官)

**「消しましょう」その火その時 其の場所です
地震・火災発生に備えた
シェイクアウト・初期消火避難訓練を実施**

「消しましょう」その火その時 其の場所です。今年度の全国統一防火標語のもと、11月9日から15日までの一週間、秋の全国火災予防運動が行われました。

九州森林管理局では、空気が乾燥し火災が発生しやすくなった時季を迎えたことから、火災予防の意識を高めるため11月14日に局庁舎において消防訓練を行い、併せて、地震に備えてシェイクアウト訓練も行いました。

消防訓練は、熊本市西消防署池田庁舎にご協力をいただきながら、火災発生時の通報や初期消火、避難誘導などの手順を本番さながらに実施しました。その後、消火器を使った初期



シェイクアウト訓練を行う職員



消火器の使い方を実践

消火の訓練を行い、職員は消火器の正しい使い方を体験しました。

消防署からは、万一火災が発生した時は、「火災発生を大声で知らせること」「家庭でも消火器を備えておくこと」、災害対策では、「熊本地震を教訓に家庭などにおいても非常食などの備蓄」「災害について話し合う時間を持つことが大切であり、平日頃からいざという時の準備をしておくこと」など、解っているように忘れがちな要点を指導いただきました。

最後に、自衛消防本部長の堂本整総務企画部長から、「こうした訓練の積み重ねが、火災や

災害時などにおける迅速な行動避難に繋がることになる」との挨拶があり消防（地震）訓練を終了しました。

今回の訓練で、備えることの大切さを再確認した一日となりました。

（担当：経理課）

JICA研修生を受入

【西表森林生態系保全センター】国際協力機構（JICA）沖縄国際センターによる「保護地域協働管理を通じた脆弱な沿岸・海洋生態系保全」コースの研修生を12月1日に受け入れました。

研修生は5カ国から9人が参加しており、はじめに保護区におけるマングローブ林の保全などに関する講義を受講しました。



サキシマスオウノキの現地で

続いて、仲間川で自然環境教育に利用している木道や、巨樹・巨木の一つであるサキシマスオウノキの現地で、当センターが実施している業務内容などについて説明を行いました。

研修生の国では、マングローブ林は建築材などに活用されているところもあり、日本のようにマングローブ林を保全して自然環境教育や観光などに活用していることについて活発な意見や質疑がありました。

今回の西表島での研修が、帰国後の彼らの活動に寄与できることが期待されます。

復興寄付金を贈呈

【熊本森林管理署】菊池市役所において、菊池溪谷の復興に役立ててもらおうと、10月5日に日本森林林業振興会熊本支部（津々見正樹支部長）、12月27日に九州国有林採石協会（中田博基会長）より、「菊池溪谷を美しくする保護管理協議会」（会長：菊池市長）に対し、菊池溪谷復興寄付金目録の贈呈が行われました。

菊池溪谷は、熊本地震により溪谷へ通じる県道や溪谷内で大規模な土砂崩れなどが発生し、現在復旧工事が行われており、

溪谷内も立入禁止となつています。

江頭実菊池市長からは、「菊池溪谷は市民共通の誇りであり、菊池溪谷が回復すると希望の光が見えてくる。寄付金は、溪谷の復興に向けて有り難く活用させていただきます」と菊池溪谷再開に向けて、お礼の言葉がありました。



寄付金を贈呈する、津々見支部長（右）と中田会長（左）



調査結果説明会を開催

【北薩森林管理署】12月13日に当署会議室において、さつま町長及び、町議会議員並びに報道関係者21人の出席のもと、本年度に北薩署が行った紫尾山のブナ林の現地調査結果の説明会を開きました。

当日は、紫尾山山頂周辺（国有林）において説明会を行うこととしていましたが、朝からの雨により当署の会議室に変更しの実施となりました。



原田 真美

(大分県別府市在住)

毎月拝読している「林野」「広報九州」などからも林業や森林についての情報を得ることが出来ますが、現地視察は、情報誌や広報誌からでは学べないことを実際に目にして把握できます。

眉山の治山事業や航空実播工の視察では、林野事業の奥深さを目の当たりにして、有意義な勉強会でした。今まで認識できていなかったことを現地研修で学べ

紫尾山のブナ林の保全・保護活動については、2008年～11年度にかけて、さつま町や町議会議員、ボランティア団体の協力を得て現地検討会や植生保護柵の設置に取り組んできました。

この活動から5年が経過したことから、本年度、当署において紫尾山のブナ林の現況調査を行い、当時ご協力いただいた皆様方への説明会となったものです。

説明会では、前田三文北薩森林管理署長から、本年度に再調

国有林モニター会議に参加して

る機会を得てありがたく思います。これからも、国有林モニターを通じて私たちの生存環境に不可欠な林野について掘り下げ、学び、そして大切にして行きたいと考えています。

視察当日は、朝5時30分の電車に乗り込み、4時間かけて諫早にやってきました。長時間かけて参加した収穫のある一日でした。

田中 みどり

(福岡県岡垣町在住)

実際に現地を案内していただいたおかげで、火山活動という



調査結果の説明を行う前田署長

査した「紫尾山のブナ林の現況及び保全対策後の経過報告」を行うとともに、公共建築物などの木造化やCLTを使った木造

建築物の現況、九州の木材需給動向などの説明がなされました。その後の質疑・意見交換では、議員から「5年前に行った調査などに参加したので、現地を見てみたかったが、写真などを使っている説明で現在の状況が分かり良かった」「植生保護柵（シカネット）が効果があったことが実感できた」「種子を採取して養苗してはどうか」などの発言がありました。

前田署長からは「今後も調査を継続していく考えであり、関係行政機関やボランティア団体問題についても考えさせられました。」

特に印象が強かったことは、眉山という山の存在です（書店に並んでいる関連書籍でも、眉山について載っていないものもありました）。

私たちが通った方向から見た眉山は、雲仙岳の前にあつて、結果として火砕流を遮ったということでした。しかし、その眉山自身も土石流によって、人々に襲いかかった歴史があります。そういう自然とどのように付き合っていくのか、東日本大震災で津波が防波堤を越えたように、想定外のことが起こることも心において、自然との付き合い方を探っていかなければならない



質疑・意見交換の様様

こととを再認識させられた一日でした。久しぶりにJRに乗った帰り道、諫早湾の水門に問いかけられているような気がしました。

一宮 正博

(福岡県筑紫野市在住)

雲仙普賢岳の噴火災害にかかる治山事業の現地視察をさせていただいて感じたことは、すさまじい自然エネルギーの力です。その中で、人間は何ができるのか。自然に対峙するのでは無く、自然を味方につけ、ともに歩んでいくこと。抽象的ではありませんが、それが森林管理局が目指す治山事業の要諦ではないかと思えます。

衛生講話で薬について学ぶ

「おくすりの話」と題し衛生講話を開く

自主健康管理推進月間の行事として、1月18日、局大会議室において「おくすりの話」と題した衛生講話を開き、多数の職員が参加しました。

講話では、講師の熊本市保健所医療政策課高木舜氏と馬場恵美子氏より、薬の関係について詳しく話していただきました。

まず、薬局と薬店の違いについてでは、薬局は調剤室があり医師の処方せんに基づき処方薬を扱えるところで、薬店とは一般的にドラッグストアのこと。また、処方薬は一人の患者を対象としているのに対し市販薬は患者一人ひとりに応じていない。使用期限も市販薬には記載があるが、処方薬には記載がないことから、まずは処方された期間内しっかり飲み、余った場合は処分した方がよいとの話がありました。

次に薬の基礎知識として、薬の効果が早いのは、注射剤・吸



講師の高木氏



講師の馬場氏

入剤・舌下剤・液剤・散剤・錠剤の順で血液中の濃度で薬の効き方が決まることから、量や回数を減らすと効果が現れない場合もあり、飲むときには食前・食後・食間などの時間を守り、水かぬるま湯で飲むこと。保管



都会の中の憩いの森
監物台樹木園の
多様な植物

春一番に黄色の花を幹一杯につけますので大変目立ち、必ず目につく花です。中国や朝鮮から享保年間に薬用植物として伝えられ、現在は庭園木として植えられる落葉高木です。

名前は漢名をそのまま呼んで種名となっていますが、花が春一番に黄色に咲くことからハルゴガネバナ、また、秋の果実が真っ赤に熟すことからアキサンゴとも呼ばれます。

漢方薬の生薬名は「さんしゅゆ」と呼ばれ、滋養、強壯、冷え性、前立腺などの薬効があり、

に当たっては高温多湿な箇所は避け、年に一度は薬箱の整理を行う方がよいと説明されました。最後に薬を買うときには、

「どこが」「どのように」「いつから」「どのような状況」かによって薬の種類も変わるとともに過去の副作用などにも注意が必要である。また、薬にも「先発医薬品」と「後発医薬品（ジェネリック医薬品）」があって、ジェネリック医薬品は安価で薬の効果に変わりはないなどの話があり、職員も真剣に聞き入っていました。

この講話が、職員皆さんの健



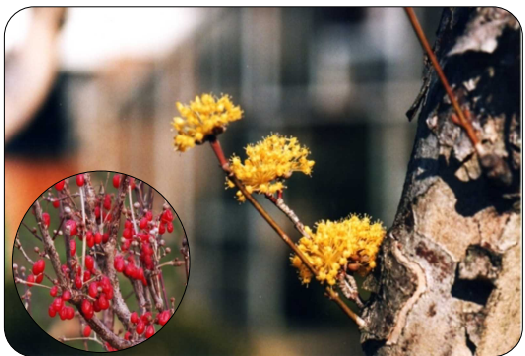
111 サンシユユ(ミズキ科)

家庭では果実酒として利用されています。

葉は対生し楕円形で全縁、先は尖り、葉も小枝もT字状の毛に覆われ、葉の裏面では支脈が隆起し湾曲してほぼ平行に走り、脈腋に黄褐色の毛があります。

花は両生花で、小柄があり花弁4個、雄しべ4個、雌しべ1個があります。

樹木園には、入り口すぐの東側と西側の駐車場入り口付近にあります。春の黄色の花、秋の透けるような赤い果実は見事です。



講話に耳を傾ける職員

康管理の一助になり、健康で明るい職場づくりに繋がれば幸いです。

(担当)総務課



みづきの歩路

ここへ来てようやく寒さが厳しくなってきました、連日最低気温が氷点下になり、コート・マフラー・手袋と、防寒重視の格好で通勤となっているところですが▼寒いと言っても庁舎内ならまだ良い方で、風が吹き雪の舞うこの時期に、現場業務を行う職員皆さんの辛さは・・・推して知るべしと言ったところで、しょうか▼寒い中での業務は、体が硬くなるうえ、凍結や積雪などによる滑り転倒、車で移動中のスリップ事故など、寒い季節ならではの注意事項が多くなりますので、安全対策を確実に実施してください▼2月期は「ゼロ災月間」になっています、寒くても作業前には十分体をほぐし、凍結・積雪による歩行中の転倒などにはくれぐれも注意して、「今月もゼロ災で行こう！よし！」で災害ゼロを達成しましょう▼寒い日が続きますが、季節は春に向かって着実に進んでいます、沖縄ではカシバクラが開花し桜祭りが開かれ、熊本城内では梅の花が咲き、出水のツルの北寄行が始まりました、春はそこまで来ている。

(も)